



薫っ子だより

「気づき・考え・行動する 薫の子」



令和7年5月29日

学校便り No.9

文責：校長 新田直子

豊かな学び 続々！



運動会が終わり、各学年・学級では意欲的に授業に取り組んでいます。今回は、5月後半の薫っ子たちの豊かな学びの様子を紹介します。

☆ 聞いて、考えを深めよう（6年）

6年生は国語の授業で、インタビューしながら自分の考えを深める学習に取り組んでいます。校長室にも学級ごとにインタビューに来てくれました。質問したいことをしっかり考えてインタビューし、聞き取ったことをノートにメモしたり、自分の考えを付け加えて述べたりと、意欲的に学習に取り組む6年生の学びの姿、素晴らしいです。

☆ How are you?（3年）

3年生は、AETの先生と一緒に外国語活動の学習に楽しく取り組んでいます。How are you?の質問に対する英語での答え方にたくさん慣れ親しむことができました。ゲームを交えながら、楽しくインタビューし合っていました。

☆ ふるさと（5年）

5年生は書写の毛筆の学習で「ふるさと」の字に挑戦しました。ひらがなの筆づかいに苦戦していましたが、最後まで一生懸命仕上げることができました。自分の名前も、細筆で丁寧に書き上げていました。



子どもたちの「自立」について考える



義務教育は「各個人の有する能力を伸ばしつつ社会において自立的に生きる基礎を培い、また、国家及び社会の形成者として必要とされる基本的な資質を養うことを目的として行われるもの」と教育基本法第五条第二項に示されています。学校教育の目的「子どもたちの能力を伸ばし、自立的に生きる基礎を培う」ことについて、改めて考えてみました。

私たちは親として「我が子が転ぶのはかわいそう」「転ばないように支えてあげなくては」と考えがちですが、それは子どもたちの自立を促すことになるのでしょうか。社会はたくさんの課題にあふれており、子どもたちも日々いろいろな課題に直面しながら歩みを進めることとなります。問題に直面しないように親が手を回すには限界があります。大切なのは、課題にぶつかったとき、転んだときに、自分で立ち上がること、レジリエンス、修復する力ではないでしょうか。そのような力は、一朝一夕に身につくものではありません。いろいろな問題に直面しながら、少しずつ学び、身につけていく力だと思います。子どもたちの周りの私たち大人は、それを見守り励ますこと、転んで立ち上がったことを大いに褒めて認めることが重要だと思います。私たちは努力していても、人間ですから誰でも間違ったり失敗したりします。子どもなら尚更です。失敗を責めるのではなく、失敗を恐れずにチャレンジできたとき、失敗から学び立ち上がったとき、その子を認め励ませる大人がいることが大切だと思うのです。親として、教員として、子どもたちに関わる時、そうありたいと願っています。